

# 外部顧問の藤森氏と「保育マスク」の共同研究を行いました

2020/12/14

KODOMOLOGY株式会社は、2020年11月、当社の外部顧問である言語聴覚士の藤森めぐみ氏（上智大学大学院卒 言語学修士）とともに、保育者の口元と表情がはっきりと見え感染予防にも配慮した「保育マスク」の試作と試用について共同研究契約を結び、下記の取組を行いました。現在このコロナ禍では、保育所において、こどもに関わるおとながマスク着用を余儀なくされています。藤森氏によれば、おとなのマスク着用がこどもの育ち（①愛着形成②ノンバーバルコミュニケーション③バーバルコミュニケーションにおける聴理解④発音・音韻認識の力の獲得⑤表情認知能力の獲得）にマイナスの影響をあたえている可能性があり、その着眼を出発点として藤森氏と下記の共同研究を実施しました。（今回はKODOMOLOGYが運営受託をしている㈱資生堂の「カンガールーム掛川」の保育スタッフ社員が参画。）

- ・大人の口元、顔全体の表情が自然に見え、飛沫を通常のマスクと同程度に防ぐことができ、保育現場において使いやすい「保育マスク」を試作する
- ・上記の「保育マスク」と通常のマスクを実際の保育室内で保育士が試用し、こどもたちの様子を比較観察する

具体的にはカンガールーム掛川の保育士が、下記写真のような試作マスクをつけて14カ月と16カ月のこどもに自由遊びや手遊び歌などで関わり、その様子を撮影した動画(4条件で合計約24分)を分析しました。分析の結果、二人のこどもが保育者の顔を見た回数(1秒あたりに換算)は、試作品着用の場合、通常のマスク着用時より、それぞれのこどもで7.3倍と1.7倍に増加しました。

藤森氏は本研究結果を、2020年11月22日「子どもの発達支援を考えるST(言語聴覚士)の会 オンライン研修会」にて発表しました。この結果を得て、KODOMOLOGYでは通常のマスクの使用を前提におきつつも、藤森氏とともにリスクのない形での「保育マスク」の改善をすすめ、こどもによりそう工夫を保育実践のなかに取り入れていきたいと考えています。

## 4-1. 保育マスクの試作



フェイスシールド：平岡工業株式会社 HIRAX AIR SHIELD-PRO  
ランニングマスク（一部を使用）：A-KG UVクールフェイスマスク FM15-20

- ①口元のみならず顔全体の表情が自然に見えること
- ②フェイスシールド下方への飛沫を防ぐとともに、横・上からの飛沫防止効果も高めること
- ③保育現場において使いやすく、外観がなるべく自然であること

2020年11月22日  
藤森めぐみ氏  
「子どもの発達支援  
を考えるSTの会」での  
発表資料より抜粋

本件に関するお問い合わせ先  
KODOMOLOGY株式会社 伊藤 かん奈 TEL: 070-3852-2860(直通)  
<https://www.kodomology.co.jp/>